

## 神経難病 医療従事者研修

H29.10.2(月)~3(火)  
4名  
H29.11.13(月)~14(火)  
6名

主催：高知県健康政策部健康対策課

### 神経難病医療従事者研修に携わって

3病棟看護師 山口 沙希

今年初めて「神経難病医療従事者研修」の担当をさせて頂きました。私は入職してまだ3年目で神経難病に関わって日が浅く、十分な指導ができないのではと不安でした。

研修生は、ベテランの看護師、訪問看護師、理学療法士の方でした。研修では、日常の業務や疾患の説明などなかなかうまく伝えられない場面もありましたが、研修生の方々が真剣に聞いてくださる事でやり遂げられ、自信につながることができました。



医師や他部署の講義に加え、今回からは、難病認定看護師の講義が新たに組み込まれ、自分自身も改めて勉強することができ、知識を深めることができました。事前のアンケートでは、人工呼吸器についてや、看護師サイドでも行えるリハビリやポジショニングなど、訪問看護師ならではの質問もあり、臨床工学技士やリハビリスタッフの皆さんの協力も頂きました。研修生と関わる中、多施設のことや訪問看護のこと聞け、訪問看護の難しさも知ることができました。

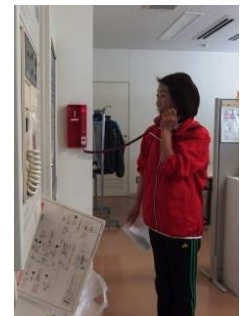
研修後の反省会では、人工呼吸器を装着されている患者様を週に1回入浴していることについてすごく驚かれており、自身の病院でも行っていけるように広めていきたいと話されていた研修生がすごく印象に残っています。普段私たちが当たり前に行っている事も他院では難しく、当院ならではの良さなんだと気付いた時間でした。

今回研修を担当させて頂くことで、様々な振り返りもでき、自分なりに少し成長できたと思います。今後もより一層患者様に寄り添える看護を行っていけるよう、頑張っ業務に励んでいきたいと思っています。

## 南国市消防署 指導による 消火・避難訓練 南国病院本館 & 在宅医療支援センター H29.12.21(木)

統括管理部長 梅原 浩一

平成29年12月21日に南国市消防署より2名の担当者を派遣していただき、南国病院と在宅医療支援センターで、消火、避難訓練を行いました。初期消火、



連絡、誘導、通報など一連の流れは比較的スムーズにできたと思いますが、あらかじめ想定され

た訓練計画に基づくもので、実際に発生した時には訓練通りにはできないであろうという不安もありました。毎年訓練を継続し、職員全員が新たな気持ちで心構えすることが大切であると感じました。

消火訓練は新たに入職した職員を中心に水消火器を使って行いましたが、ほぼ全員指導どおりにできていました。毎年、訓練はスムーズに対応できますが、実際の場面では訓練の様に平常心を保ち消火活動ができるのかという不安もあります。火事が起こらないにこした事はありませんが、常日頃からもしもの時に備えて、消火器の配置場所、消火栓の使用方法、避難場所、消防署への通報等を各自が熟知しておかなければならない事を再認識しました。



## 通所リハビリ テーションの お正月準備



通所リハビリテーション室長 理学療法士 市村 瑞也

寒さが増し、慌ただしくなってきた12月、通所リハでは、お正月に向けてみんなの（利用者、職員とも）気分を一層盛り上げるため、年末を感じてもらえることを行ってみました。

最初は、吊るし柿作りです。20kgの渋柿を、利用者の皆さんで手分けをして皮むき、紐結びを行いました。利用者の一人が小さな包丁を何本か持ってきてくれたおかげで皮むきははかどりましたが、量が多く3kg程を残して終了となりました。皮をむいた渋柿を熱湯につけ消毒の後、精神科作業療法室の前のベランダを借りて干しました。その数なんと80個。毎朝の個数の確認（これ大事）と柿をもむ作業、雨の日はシートを掛けたりと、厳しい品質管理のもと2週間ほどで丁度の硬さに仕上がり、後は食べるだけ。利用者さんに配り、色合いや味などの評価をお聞きすると満点とのこと。また食べたいと言う方も多く、あっと言う間に吊るし柿80個は、正月を待たずに無くなりました。

### 吊るし柿作り



続いてお正月といえば門松としめ縄は、なくてはならないアイテム。門松の材料は、自分の家の裏山と庭にある。じゃあ作ってみようかと材料は集めたものの、私は訓練が忙しく手伝いがほとんどできなかったにもかかわらず、2人の利用者さんだけで切り出し、組み立てを行い、3回の作業で立派な門松が出来上がりました。縄のクルクルが職人芸を感じさせ



### 門松作り



る一品となりました。（門松は昔よく作っていたとのこと）

対してしめ縄の方は、材料集めに苦労しました。周りの人に声を掛けると、わらは精神科デイケアの宮崎牧さんに頂き、山で私が取ってきたウラジロはただのシダと判明し利用者さんに取って来てもらいました。橙も別の利用者さんの畑に取りに行き、何とか材料がそろったところで、子供の頃よく作ったと言っていた利用者さんに編んで頂きました。わらが固いとことで水に濡らし何度も木で叩き、やわらかくするのがこれまた大変。苦労した甲斐あって、手に力が入らぬと言いながら編んでくれたしめ縄は、通所リハのドアの上に飾るともうお正月。いつも床を見ながら歩いている利用者さんも入口に来ると見上げて、門松と合わせて「よう出来たねえ」「お正月らしゅうなった」と喜んでくれました。

